

# 街路における景観要素としてのガス灯の影響と活用に関する研究

## － 大阪市船場の三休橋筋を事例に －

枚方市都市整備部都市整備推進室 岡本 侑香里  
関西大学環境都市工学部 岡 絵理子

### 1. 研究の背景と目的

大阪市中央区船場のほぼ中央に位置する三休橋筋の土佐堀通から中央大通までの区間では、2007年からガス灯の整備が始まり、2014年6月には全区間55本のガス灯が点灯し、大きな話題となった。三休橋筋沿道の魅力ある近代建築物や、一連の大阪市による街路整備<sup>(1)</sup>、地域や自主活動グループ三休橋筋愛好会<sup>(2)</sup>の活動により、三休橋筋は業務地船場の中でも、魅力ある通りに変貌している。特に昼間は、デザインされたガス灯が通りに並ぶ近代建築と一体となり、レトロな景観をつくり出している。しかし、夜間はガス灯が既存の照明に埋もれ目立たず、その存在が分かりにくいものとなっている。

夜間景観に関しては、夜間景観に関するガイドラインを立てる都市も存在するが、大阪市では夜間景観に対する特別な取組は行われていない。前場地区は業務地区として発展してきたが、都心居住の促進や地域の魅力を高める上でも、夜間の魅力づくりは重要であると考えられる。

本研究では、まず三休橋筋のガス灯整備が沿道に与えた影響を明らかにし、さらにその効果を活かしながら夜間の景観を創出する装置としての、ガス灯を活かした通りの目指す姿を実現させる方法を導き出すことを目的としている。

このことは、第二次世界大戦後の明るいことが良いとする照明への一般的な認識を見直し、日本の夜間景観のあり方を再考するきっかけとしたい。

既往研究としては、「夜間街路の歩行環境における街路灯の色温度と配置に関する実験調査」<sup>(3)</sup>など夜間の安全性や用途区分による評価はされているが、ガス灯を用いることや沿道との関係性を捉えた研究はなされていない。

### 2. 各都市における景観の捉え方

現在大阪市は景観行政団体として、建築物における周辺環境との調和を考えた形態意匠の工夫や、緑化などの景観づくりが積極的に行われている。しかし、それらは昼間の見え方に注視した計画であり、夜間の景観については、道頓堀のイルミネーション活動など川沿いの夜景を魅力として広める活動はあるが、景観計画としての具体的な記述はほとんどない。

大阪市のように夜間景観を特に取り上げない自治体が多いが、夜間景観についての景観ガイドラインを立てている都市も存在する。その1つが横浜市である。横浜市の関内地区の景観ガイドラインでは、歴史的建造物に関してはライトアップを行い、その周辺の建造物は投光器などで照らすことを禁止している。このことは、近代建築に重きを置き近代建築を目立たせることで、近代の開港から始まった

横浜市の歴史を街並みに継承させている。

### 3. 三休橋筋の概要

船場地区では、17世紀、大阪城から大阪湾に向かう東西軸沿いに町がつけられた。近代に入り、南北方向に町を見ると、南側では繊維を中心とする商業地、北側では金融街が広がっていた。

本研究では、図-1に示した三休橋筋の土佐堀通から中央大通のガス灯が設置された区間を調査対象とする。この地域は主にオフィス街である。建物の低層部は用途がさまざまなが、中層部、高層部はそのほとんどがオフィスとして利用されている。また、幅員は7間(約12.73m)と周辺の筋よりも広い。

大阪ガス株式会社が100周年記念事業としてガス灯の寄付(資金)を行った際、地元住民らの呼び掛けによりその半数である30本のガス灯が三休橋筋に寄付された。これがきっかけとなり、現在55本のガス灯が三休橋筋に並んでいる。

三休橋筋のガス灯が街に与えた影響を調べる上で、三休橋筋愛好会メンバーとHOPEゾーン事業<sup>(3)</sup>に携わる人々に事前ヒアリング及びアンケート<sup>(4)</sup>を行った。その結果によると、「皆ガス灯が設置されたことにより街が変化した」と感じており、その変化としては、「地域の人々によるコミュニティ意識の醸成により三休橋筋に愛着を持つ人が増えた」、「店を出したい人や散歩する人々が増えた」、「雰囲気はよくなった」などの効果が指摘された。その他にも、ガス灯設置の影響として、「近代建築の前に集中的に設置されたガス灯が近代建築の存在を知らせる役割を果たした」、「三休橋筋に他の筋や通りとは違う景観をつくり出し、差別化された」という意見もあった。またガス灯といわれると、夜間明りが立ち並んでいる姿を思い浮かべる人が多かった。

今後の三休橋筋の理想像や必要な整備について聞いたところ、「ガス灯が映えるようにテントの色の調整や光源のルール作りが必要である」、「不法駐輪を無くす必要がある」、「一般の人がガス灯に気付くような案内板やゲートが必要だ」、「高質でシックなイメージをもちながらも下町の親しみやすさを残すそんな個性のある街であって欲しい」「街を地域組織でマネジメントしていきたい」などの意見があった。以上の意見を参考にして、三休橋筋の変容把握に関する調査項目を設定した。



図 - 1. 三休橋筋周辺地図及び屋外照明のプロット図

2000	05	三休橋筋愛好会発足
	09	歩きたくない道 100 選 (三休橋筋を提案)
2001	12	船場 げんき提案・各団体の交流の開始
2003	05	プロムナード整備 (大阪市との意見交換会の開始)
2004	03	三休橋筋発展会発足
	04	三休橋筋フォーラム (初の三休橋筋の名前を冠したイベント)
2005	06	三休橋筋商業協同組合設立
2006	06	プロムナード整備工事着工
2007	06	ガス燈点灯式典開催 (第一工区の完成)
		三休橋筋 MAP 第 1 号発行 (フリーペーパーでの発信)
	07	街路樹が梅檀の木に決定
2008	03	三休橋筋スケッチの設置 (京阪地下通路に設置された紹介パネル)
	04	三休橋筋清掃活動の開始 (沿道企業が協力)
	08	船場 HOPE ゾーン協議会の開始
2009	06	大阪あそ歩の開始 (三休橋筋まち歩き)
2011	03	プロムナード整備の主要工事の完成 (歩道拡幅、ガス燈設置など)
	11	各交差点への銘板設置
2012	10	三休橋筋花飾り事業
	11	三休橋筋バル開催
2013	09	電柱の抜柱完了
2014	06	ガス燈全灯による点灯式開催 (55 本のガス燈の点灯)

図 - 2. 三休橋筋の年表<sup>2)</sup>

#### 4. 調査の概要

本研究では以下の3つの調査を行った。

調査Ⅰ：現地観察調査による三休橋筋および周辺敷地内の外部照明のプロット図の作成

調査Ⅱ：2005年から2014年までの建物1階部分における使用用途の変化の分析

調査Ⅲ：photoshopで作成した照明の修景提案画像と、現実の実写写真の比較による修景提案

#### 5. 三休橋筋の外部照明の実態

現在どれくらいの照明器具が設置されているのかを調べるために、現地観察調査(調査Ⅰ)を行った。但し、図-1では沿道の建物壁面に設置された照明には考慮していない。表-1では、三休橋筋とそれに交差する通りに関して図-1にプロットされている照明数を数えた。

表 - 1. 三休橋筋沿道の外部照明の内訳

ガス燈	道路照明灯	私有灯(高)	私有灯(低)	信号機
55 基	98 基	84 基	139 基	41 基
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り付け高さ 約 3m</li> <li>・照度が低く、明るくはない。</li> <li>・白色に近い薄い橙色の拡散配光である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナトリウム灯</li> <li>・取り付け高さ 8m</li> <li>・照度平均 10.5lx (0.7cd/m<sup>2</sup>)</li> <li>・橙色の拡散配光で街路上で最も目立つ光</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開空地に集中して立っていて、目立つ存在である。</li> <li>・主に白色光の拡散配光である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極めて設置個数が多い。</li> <li>・赤や青といったこの通りに無い色味なので道路照明灯の次に目立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置間隔が狭く、赤や青といったこの通りに無い色味なので道路照明灯の次に目立つ。</li> </ul>

結果から、ガス燈の設置数に対し、それ以外の照明の設置数が極めて多く、照度も高いことがわかった。また、近代建築沿道と公開空地に灯りが集中していた。そこにガス燈を多く設置しているため、ガス燈が周囲の灯りに埋もれてしまっていることが明らかとなった。その一方で、ガス燈も私有灯も少ない部分もあり、通りとして明るさにバラつきがあることがよくわかった。

## 6. 三休橋筋のガス燈が街へ与える影響

ガス燈の設置による三休橋筋沿道の建物およびその用途への影響を明らかにするため、住宅地図を用いて調査Ⅱを行った。

表 - 2. 建物の1階部分における沿道の建物軒数に対する一般客が出入りできる建物軒数の割合

年	2005	2008	2011	2014
一般客の入れる建物軒数の割合	52.94%	53.92%	58.00%	65.98%

表 - 3. 建物の1階部分における沿道の建物軒数に対する飲食店の店舗数の割合

年	2005	2008	2011	2014
飲食店の割合	31.07%	31.73%	35.29%	43.30%

表 - 2はガス燈の設置前である2005年から設置完了後の2014年にいたる、沿道建物の1階部分における沿道建物数に対する一般客が出入りできる建物軒数の割合の変化を示している。2005年と2014年の比較では13.04ポイント一般客が利用できる建物の割合が高くなっている。

表 - 3は沿道建物の1階部分における沿道建物数に対する飲食店の店舗数の割合の変化を示している。2005年と2014年の比較では12.23ポイント飲食店の店舗数の割合が高くなっている。

建物の1階部分に新しく入居した店舗数を調べたところ、2005年から2008年の3年間では4軒、2008年から2011年の3年間では11店舗、2011年から2014年の3年間では26店舗増加していることが明らかとなった。

建物自体の建て替え軒数を同じ期間で調べたところ、2005年から2008年が4軒、2008年から2011年が5軒、2011年から2014年が5軒であった。

以上これらのことから三休橋筋では、ガス燈設置が始まった2005年以降、特にここ数年は、建物の更新、入店が進み、人々が歩いて楽しむことのできる通りに変化していることが明らかとなった。三休橋筋は、ガス燈が設置されたことによって、オフィス街でありながらも一般の人を訪れる通りへと変化していると考えられる。

その一方で、近年の三休橋筋では、沿道に向かって開いた店舗が増えたことから、看板灯などの照明を設置する建物が増えたことも指摘できる。これらの店舗照明に関する

取り決めはなく、各店舗が思い思いに照明を設置するために、より目立たせようと灯りを多く燈す店舗も存在し、通りとしてはさらに明るくなっていることが現地調査により確認できた。

視覚的な変化を捉えるため、ガス燈設置以前からある店舗と設置後に出来た店舗の外観を比較した。



写真 - 1. ガス燈設置以前からある店(マンリー商会)



写真 - 2. ガス燈設置後に出来た店(GARAGE39)

設置前からある店舗には、外観が和風朝のうなぎ屋やそば屋などの飲食店や、下町感のある商店など(写真 - 1)があった。設置中あるいは設置後にできた店舗には、外観がモダン調やカントリー調のバーやイタリアンの店など(写真 - 2)があった。このように店舗の客層が交じりあい、視覚的にも街並みが変化していることを捉えることができた。

三休橋筋では、出店時期やターゲットの異なるさまざまな店舗が立ち並んではいるが、不自然さはなく、それが逆にお洒落でありながらも親しみやすさも感じられる街並みの個性となっていると考える。

## 7. ガス燈のある街への修景提案

ガス燈が映え、なおかつ三休橋筋の個性が表れる夜の景観を上げるために必要なことを検討するために、photoshopの画像加工を利用して集計による検討を行った。以下がその修景提案画像と実写写真(写真 - 3, 4)による比較である。

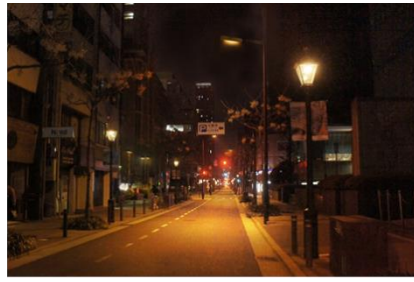


写真 - 3. 道路照明の修景前後の三休橋筋



写真 - 4. 店舗看板の修景前後の三休橋筋

修景提案画像では、次の修景を行った。但し、写真 - 3 では①②を写真 - 4 では①②③④を行った。

- ① 沿道の照明色を、ガス灯の色に似せた電球色へと変更
- ② 道路照明灯をグレア<sup>®</sup>が発生しやすい明かりが拡散するタイプから真下だけに灯りを落とすタイプの照明へと変更
- ③ 内照式のコンビニ看板を、文字部分はバックライトにより箱文字部分を浮かび上がらせる間接照明方式、看板は上下から間接照明で照らす仕様へと変更
- ④ 上部に設置されている内照式看板を、外照式看板へと変更

以上の修景により、ガス灯が特に目立つわけではないが、街並みとしての統一感が生まれ、街中でありながらもガス灯通りの落ち着いたイメージに近づけることができる。

## 8. まとめと考察

三休橋筋には、道路照明、公開空地内照明ほかさまざまな照明があり、これらの数、照度ともにガス灯より多いため、ガス灯が認識しにくくなっていることが明らかとなった。また、ガス灯の設置場所が、近代建築物や公開空地など既存照明が多くある所であることもガス灯を見えなくさせている一因であることも明らかとなった。一方で、三休橋筋全体をみると、ガス灯、照明ともに少ない場所もあり、通りに灯りのバラつきができていたことが分かった。

ガス灯設置後の三休橋筋沿道建物の変化は、①一般の人々が入り出ることができる建物の増加、②1階店舗の増加、③沿道建物の建替えがみられた。三休橋筋では、ガス灯設置により出店時期やターゲットの異なるさまざまな店舗が立ち並んでいるが、不自然さはなく、それが逆にお洒落でありながらも親しみやすさも感じられる街並みの個性となっている。この結果、ヒアリングやアンケートで得られたように、散策人の増加や、街の雰囲気やイメージの変化がも

たらされたと考えられる。その一方で、店舗の増加により、店舗の看板照明などが増加していることが確認できた。

以上の結果より、三休橋筋におけるガス灯設置の効果をさらにあげるためには、街路の照明の色温度を合わせることでガス灯の持つ雰囲気を通り自体にうつける方法や、必要最低限の明るさを担保したうえで unnecessary な灯りを消し、街路自体の明るさを抑える方法、通りとしては、杯計画を考案することが効果的である。

夜間景観全体を捉えた場合、さまざまな照明器具や通りがあることから、その通りに対し、必要なもの、 unnecessary なもの、統一させるもの等を検討し、目指すべき姿を明確にしながら景観を作っていく必要があると考えられる。どんどん灯りを足していけばいいという今までの考え方は捨てるべきである。

### 【補注】

- (1) プロムナード工事のこと。歩道の幅幅・ガス灯の整備・並木の設置・銘板の設置・電柱の地中化の5つを指す。
- (2) 船場や三休橋筋沿いの不動産オーナーでも住民でもない都市計画や建築、まちづくり分野のオフィスワーカー5人組
- (3) 歴史的、文化的な雰囲気やまちなみなどに恵まれた地域を、大阪市の居住地イメージを高めるモデルゾーン（HOPEゾーン）として位置付け、市民と連携・協働して、様々なまちづくり活動を展開しながら、それぞれのまちの特性を活かしたまちなみづくりを進め、魅力ある居住地づくりをめざす事業
- (4) ガス灯が三休橋筋に与えた影響やガス灯の果たす役割、今後三休橋筋に必要な整備等を問うたもの
- (5) 視野における照度の分布が不均等なために、対象が見えにくくなったり、一過性の盲目状態になったりする現象。

### 【参考・引用文献】

- 1) 高久洋介、柳瀬亮太、夜間街路の歩行環境における街路灯の色温度と配置に関する実験的研究、日本建築学会計画系論文集 第635号、51-57、2009年1月
- 2) SANKYU BASHI STREET GUIDE MAP 2014、2014年10月、三休橋筋愛好会